

平成17年度高モデル・先進型事業事業評価結果一覧表

都道府県名	市町村名	事業実施主体名	取組名	事業実施年度	成果目標の達成状況					費用対効果		地方農政局長等の意見(※)	備考
					具体的成果目標	現状(計画時点)	目標(平成19年度)	実績(平成19年度)	達成率	事前評価	事後評価		
北海道	帯広市	帯広大正農業協同組合	競争力強化生産総合タイプ	平成17年度	大根の秀品率の向上、長いもの秀品率の向上	大根	84%	87%	91%	233.0%	大根集出荷選別施設 1.04	0.04 (1.41)	<p>・大根については、洗浄・選別能力が向上し、適期収穫・出荷が可能となったことから、秀品率が向上し、成果目標を達成した。</p> <p>・長いものについては、貯蔵期間において腐敗が減少し、歩留まりが向上する等の効果が見られるものの、施肥、収穫技術等に課題があり、選果時点での秀品率は低く目標達成にはいたらなかった。</p> <p>・今後、成果目標の達成に向け、集荷時点での長いもの品質向上のための生産技術面での改善が必要である。</p>
						長いもの	62%	65%	49%	△430%	長いもの集出荷選別施設 1.04	4.94	
											大根・長いもの予冷貯蔵施設 1.35	2.19	
北海道	豊富町	JA豊富	競争力強化生産総合タイプ	平成17年度	労働時間の削減	146.6時間/頭	(中間目標) 40.7時間/頭	40.7時間/頭	100.0%	1.13	△0.01 (1.00)	費用対効果については、生産調整の対応により、低能力牛の淘汰、飼料給与の抑制により生乳出荷量が減少し、販売額が20%程度減少したこと、また、飼料高騰の影響による購入飼料費の増加、資材高騰の影響による自給飼料費の増加等を要因として、△0.01となった。上記の影響を除いた場合の費用対効果は1.00となる。	
北海道	湧別町	(有)アグリサポートばろう	競争力強化生産総合タイプ	平成17年度	飼料自給率の向上	50.90%	(中間目標) 53.6%	63.50%	466.7%	3.03	△1.27 (0.63)	費用対効果については、購入飼料費や資材費が高騰したこと等によって支出が増加し、△1.27となった。上記の影響を除いた場合の費用対効果は0.63となる。今後は飼養規模拡大、飼養管理の改善による乳量の増加及び新たな食品残渣の利用による資材費の低減に努めることにより改善を図っていきたい。	
岩手県	一戸町	有限会社岡外牧場	競争力強化生産総合タイプ	平成17年度	労働時間の65%削減	搾乳牛1頭当たり労働時間 年174.6時間	(中間目標) 搾乳牛1頭当たり労働時間 年117.5時間	搾乳牛1頭当たり労働時間 年54.6時間	105.3%	1.16	0.25 (2.89)	費用対効果については、平成18年度から19年度にかけて牛乳の減産型計画生産が行われたことにより販売数量が計画を下回ったこと及び配合飼料や燃料等の資材費の高騰により、0.25となった。上記の影響を除いた場合の費用対効果は2.89となる。	

平成17年度高モデル・先進型事業事業評価結果一覧表

都道府県名	市町村名	事業実施主体名	取組名	事業実施年度	成果目標の達成状況				費用対効果		地方農政局長等の意見(※)	備考	
					具体的成果目標	現状(計画時点)	目標(平成19年度)	実績(平成19年度)	達成率	事前評価			事後評価
岩手県	西尾町、松生町	農事組合法人岩手山麓ディリーサポート	競争力強化生産総合タイプ	平成17年度	自給飼料生産費	11.97円/kg	8.26円/kg	8.68円/kg	89.0%	1.66	0.91	・燃油や肥料等の資材費等の高騰という社会環境の変化等によるコスト増及びデントコーンの鳥獣被害(熊の食害)による収量減から、目標達成にはいたらなかった。 ・しかしながら、計画を上回る飼料作付面積の拡大、飼料畑の生産・収穫作業の一括管理及び地域未利用資源の活用により、自給飼料生産費は導入前と比較し、約3割の低減が図られている。 ・また、TMR供給農家においては、発酵型TMRの給与により、飼料給与時間の減少や搾乳量の増加が図られた。	費用対効果については、燃油や肥料等の資材費等の高騰という社会環境の変化によるコスト増及びデントコーンの鳥獣被害(熊の食害)による収量減から、0.91となった。
山形県	鮭川村	(有)熊谷園芸	競争力強化生産総合タイプ	平成17年度	単収増加による切り花1本あたりの生産コストの削減	作付面積	作付面積	作付面積		1.35	1.84	・本事業においては、先進性が極めて高く全国モデルとなる新技術である「高圧ナトリウムランプによる補光と炭酸ガス施用を併用したバラ溶液栽培」を導入したことで、品質が向上(上位規格割合の向上、日持ち性の向上)するとともに、単位当たり収量が増加したことで生産コストの低減が図られた。 ・10a当たり収量については、技術導入により大幅に生産性が向上し、目標を達成した。 ・1本当たり生産コストについては、燃油高騰という社会環境の変化により目標である51円には達していないものの、単位当たりの収量の増加や燃油使用量の低減等により、52円まで低減させている。	
						1,980ha	2,455ha	2,455ha					
						10a当たり収量 14万8千本	10a当たり収量 17万6千本	10a当たり収量 19万4千本	164.0%				
					1本当たり 生産コスト 56円/本	1本当たり 生産コスト 51円/本	1本当たり 生産コスト 52円/本(51.6円)	80.0%					
栃木県	足利市	足利氏農業協同組合	競争力強化生産総合タイプ	平成17年度	いちごの高品質化L以上秀品率70%以上	65.10%	70.20%	70.60%	107.8%	1.28	1.04		
新潟県	十日町市(中里村)	十日町農協	競争力強化生産総合タイプ	平成17年度	品質分析実施生産者の増(米) 50%以上	252人	515人	445人	86.0%	1.46	0.23(0.83)	・品質分析の実施については、個人施設による乾燥・調整の増加等により当該施設の利用者の減少等のため目標の達成には至らなかった。 ・しかし、品質分析の実施によって食味値のデータベース化や分析結果に基づく個別農家への適切な栽培指導により地区全体で品質向上の取り組みが強化されたなどの効果があった。	費用対効果については、米価下落等による販売単価の低下等により、0.23となった。 上記の影響を除いた場合の費用対効果は0.83となる。
岐阜県	海津市	西美濃農業協同組合	競争力強化生産総合タイプ	平成17年度	大豆産地安定供給対策目標年度において、事業実施地区における上位等級比率(1・2等比率)を50%以上にする	63%	70%	225%	185.0%	1.02	1.07		
滋賀県	東近江市(旧蒲生町)	滋賀蒲生町農協	競争力強化生産総合タイプ	平成17年度	水稲10a当たりの費用合計を10%以上削減	141,000円/10a	126,000円/10a	126,000円/10a	100.0%	1.06	1.28		

平成17年度高モデル・先進型事業事業評価結果一覧表

都道府県名	市町村名	事業実施主体名	取組名	事業実施年度	成果目標の達成状況				費用対効果		地方農政局長等の意見(※)	備考
					具体的成果目標	現状(計画時点)	目標(平成19年度)	実績(平成19年度)	達成率	事前評価		
島根県	吉賀町 (旧六日市町)	(有)ダイノエッグ	競争力強化生産総合タイプ	平成17年度	事業実施主体農家の労働時間の削減	183hr/千羽	92hr/千羽	71hr/千羽	123.0%	1.43	△0.48 (3.02)	費用対効果については、飼料価格高騰により、△0.48となった。上記の影響を除いた場合の費用対効果は3.02となる。
山口県	長門市	長門大津農業協同組合	競争力強化生産総合タイプ	平成17年度	食味分析を行う生産者の割合を5割以上とする	4,000点	4,200点	4,321点	160.5%	1.006	0.69 (3.55)	費用対効果については、米価下落等による販売単価の低下等により、0.69となった。上記の影響を除いた場合の費用対効果は3.55となる。
佐賀県	小城市 (旧三日月町)	佐城農協 (現佐賀県農協)	競争力強化生産総合タイプ	平成17年度	品質分析の実施生産者の割合を100%とする	10%	100%	100%	100.0%	1.11	1.19	
宮崎県	都城市	都城協同組合	競争力強化生産総合タイプ	平成17年度	子牛1頭当たりの生産費削減	349,022円/頭	(平成21年度目標) 293,888円/頭	533,286円/頭	△334.2%	1.09	0.21 (0.51)	・成果目標については、サンシャイン牛舎の利点が省力化であるにもかかわらず、生産費の実に4割を占める大変重要な項目である労働費が含まれない形となっていたことから、サンシャイン牛舎を活用することによる効果を適正に評価するため、別途、労働費を含む生産費について算定、検証したい。 ・目標年度に向けては、今後とも関係機関と連携しながら適切な助言・指導を行っていく。